

小川原湖に抱かれ、人々が笑顔で暮らす、住みよい東北町。

# TOHOKU-TOWN LIFE

東北町勢要覧 2017

[ダイジェスト版]

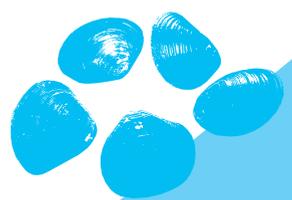




笑顔・元気・活力あふれ  
 未来に羽ばたく  
 とうほくまち

青森県の太平洋側  
 上北郡の中央に位置し、  
 小川原湖に寄り添うように  
 南北に伸びる町、  
 それが私たちの東北町です。  
 湖と山々に抱かれた  
 豊かな自然環境と観光資源、  
 育んできた様々な産業と文化が、  
 これまでも、これからも  
 東北町の暮らしを支えます。

マークのついた画像にスマホをかざすと小川原湖の空撮動画が見られます。  
 無料アプリ「COCOAR2」を検索してインストールしてください。



TOHOKU-TOWN  
 LIFE

# 小川原湖と 生きる町

はるか太古は海であった小川原湖。  
 気の遠くなるような時間を経て、  
 今のカタチになりました。  
 東北町の人々もまたこの湖とともに生き、  
 子どもから大人へ成長していきます。  
 小川原湖と寄り添いながら育んできた  
 文化、歴史、産業、生活、  
 そして絆。  
 小川原湖を知れば知るほど、  
 東北町の「かけがえのないもの」  
 があります。



## 小川原湖

Lake Ogawara

青森県上北郡東北町にある汽水湖。日本の湖沼では11番目の面積規模を有する。最深部は25mに達するが、岸から200m程度までは水深2m前後の浅瀬が広がる。海面水位が湖面水位より高くなる時期には海水が高瀬川を逆流し、湖に注ぎ込む。小川原湖周辺には尾駮沼、鷹架沼、市柳沼、田面木沼、内沼、姉沼などの湖沼群が分布しており、これらを総称して小川原湖湖沼群と呼ぶ。

[ヤマトシジミ]

蜆



[ワカサギ]



公魚

# 湖の幸 宝の恵み

Fishing&Lake Foods

県内最大の汽水湖である小川原湖。  
 淡水魚と海水魚が生息する  
 天然の宝湖です。

白魚

[シラウオ]

蟹



[モクスガニ]

八甲田山系の豊かな自然に囲まれた小川原湖は、高瀬川により太平洋とつながる汽水湖です。海水と淡水が交じり合うため、ミネラルが豊富なのも特徴です。昔から「宝沼」とも呼ばれ、獲れる魚介類も実に多様です。全国一位の漁獲量を誇るワカサギ、シラウオをはじめ、ヤマトシジミにウナギ、モクスガニなどがあり、一年を通して漁ができるのも特徴の一つ。また水産資源を守るため、漁の定量化を図るなどの取り組みも行われています。豊かな湖の恵みは町の食文化を支えています。





1 伝統芸能 県指定の無形民俗文化財「念佛鶏舞」をはじめ、町指定の無形民俗文化財が多数現存。各保存会が大切に継承している。

2 湖久焼 陶芸家・畑野謙一氏が発案したヤマトシジミの貝殻を釉薬に使用した湖久焼。素朴ながらも温かみのある風合い。

3 大塚甲山 1880(明治13)年、上北郡上野村(現・東北町)生まれの詩人。31歳という若さでこの世を去るまでに詩1000編、俳句1万句、短歌2400種、その他紀行文など数多くの作品を残す。



History and Culture

# 美しき姫の伝説

玉代姫と勝世姫の眠る地は  
伝説という名の彩をまとう。



## 歴史民俗資料館

小川原湖と東北町の歴史や習俗を知ることができる施設です。巨大なナウマン象の全身骨格標本や、十数万年前のトラの下顎の化石などインパクトある展示をはじめ、大塚甲山ら先人を紹介する常設展示も充実しています。



昔、京の橘中納言道忠公は世の無常をはかなみ都を離れ、小川原湖畔に庵を構えました。玉代姫・勝世姫の姉妹は、父を探して湖畔にたどり着きますが、既に父は亡くなっており、悲しみのあまり湖に身を沈めてしまっています。その湖が現在の姉沼と小川原湖になったという伝説が今も語り継がれています。現在、湖畔には八甲田の恵みを仰ぎ、湖の安全と幸せを祈る二人の姿像が訪れる人々に姉妹の優しい思いを今に伝えていきます。



Activity

# 駅伝の町、新時代へ

大人も子どもも爽やかな湖畔の風を  
浴びながら駆け抜ける。



キャンプ場



総合運動公園



わかさぎマラソン大会



湖水スポーツ

## 小川原湖ふれあい村

展望台、ケビンハウス、オートキャンプ場などを備えたレクリエーション施設。バターゴルフ場、野外遊具もあるので子どもと一緒に楽しめるスポットです。



県内全市町村が参加する青森県民駅伝競走大会で総合優勝3回(平成28年現在)、町の部では平成7年から13年連続優勝を果たすなど駅伝が盛んな東北町。平成3年には「駅伝の町」を宣言し、箱根駅伝を走るランナーを輩出するなど輝かしい成績を残しています。毎年7月には「わかさぎマラソン大会」が開催され、県内外から1700人を超えるランナーたちが集結し、小川原湖畔を駆け抜けます。このほか小川原湖周辺ではカヌーやキャンプといったアクティビティも充実。四季の移ろいを感じながら一年を通して楽しめるのも魅力です。



小笠原勝紀さん

東北町生まれ。合同会社小川原湖農園代表。専門学校卒業後、小川原地区で100年以上続く農家を継ぐ。就農して29年目。

東北町  
アグリ万菜



適地、適作。  
自然と向き合い  
野菜と語らう

ナガイモ	ゴボウ
ダイコン	ニンニク
ニンジン	畜産(乳牛・肉牛)

「やませ」の影響をプラスに  
この土地に適した野菜を  
梅雨から秋にかけて吹く偏東風  
「やませ」に、農家たちは昔から  
試行錯誤を繰り返してきた。「夏  
に冷え込む『やませ』だが、逆に  
『やませ』があるから甘くなる。  
悪い所だけでなく良いところも見  
て共存してきた」と語る小笠原勝  
紀さん。地域の特性を生かした  
野菜づくりを実践している。

根菜類に適した土壌には  
農家の愛情も注がれている  
東北町は火山灰の土壌で柔ら  
かいため、ナガイモやダイコンと  
いった根菜類をつくるのに適して  
いる。その他にゴボウ、ニンニク、  
ニンジン、畜産(乳牛・肉牛)な  
ど多くの特産品を育て上げてき  
た。東北町の農産物は農家の努  
力と愛情によって実りを迎えてい  
る。

# 燃え上がる 人と自然の融合



東北町秋まつり [8月下旬]  
上北地区の秋まつりで、自作山車運行、流し踊り、仮装大会などが4日間にわたって行われる



日の本中央まつり [9月中旬]  
東北地区の秋まつりで、山車運行、神楽囃子、仮装大会などが3日間にわたって行われる。中日に行われる日の本中央たいまつ祭では、10本の巨大なたいまつが天を焦がす迫力ある火祭り



東北町湖水まつり [7月下旬]  
「花火大会」では創作花火約4000発が湖畔を彩る。そのほか「わかさぎマラソン大会」や「手作りいかだレース」など催し物が目押しした

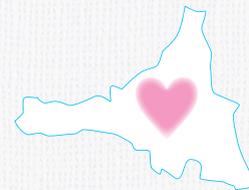


花切川へら鮎釣り  
全国大会 [5月上旬]  
桜まつり期間中、花切川で行われるへら鮎釣りの大会。全国から集まった参加者たちが腕を競う



東北町桜まつり [5月上旬]  
桜並木は「湖畔の千本桜」と呼ばれるほど、毎年見事な咲きぶりをみせてくれる

東北町の  
まつりの  
カタチ



## ♥ 漁業従事者

シジミ漁は誇り。  
だから受け継いだ

親子二代にわたって小川原湖でシジミ漁をしている鶴ヶ崎泰幸さん。父親は小川原湖でシジミ漁を商売として確立させた「初めの35人」のメンバー。そんな鶴ヶ崎さんに漁師になったきっかけを聞いた。「決心したのは高校のとき。親父に『継いでくれないか?』と言われたのがきっかけでした」。駆け出しの頃は、ウェットスーツを着用し水中に入り作業をする「アヒル」から修行し、今では船曳漁も一人でこなすまでになった。「よほど湖が荒れない限りは漁に出ています」。受け継いだ技術に、自分自身のセオリーを円熟させている。

### 鶴ヶ崎泰幸さん【プロフィール】

1984年、東北町生まれ。漁師。大学卒業後、父親からシジミ漁を継ぐ。鶴ヶ崎地区青年部、東北町青年協議会や地区の柔道協会にも所属し、地域との関わりも大切にしている。

## ♥ 移住者

(Uターン)

関東での経験を  
地元農業のために

乙部暁さんは特産のナガイモをはじめ、ダイコン、ゴボウなどを生産している農家の三代目だ。大学で先端の農業技術を学んだのち、教授の勧めで茨城県の農業改良普及センターに勤務。「自治体の仕事をする中で、行政と生産者両サイドの気持ちを知ることができました」。一方で若手農家の交流を目的とした青森県4日クラブ連絡協議会にも参加。「肥料だったり畝の栽培方法だったり、勉強会を交えながら交流しています。若手農業者にとって東北町はかなり魅力的だと思いますし、全国から就農してみたいという人も受け入れやすい環境だと思います」。

### 乙部暁さん【プロフィール】

1987年、東北町生まれ。農家。三本木高校普通科卒業後、千葉大学園芸学部へ進学。卒業後は茨城県土浦市の農業改良普及センターへ勤務。現在は東北町にUターンし就農している。

## ♥ 子育て世代

人の絆がある町。  
子ども支援も魅力

東北町で育ち、東北町で知り合った大坂さんご夫妻に町の魅力について聞くと「(真治さん)こっちは土地も広いし、地域の住民とのつながりも深くていいなと思います」。また、東北町には「赤ちゃん祝金」という条例がある。給付金額は第2子で25万円、第3子以降は35万円となっている。「(真治さん)町の祝金第一号でいただいたのが長女の誕生でした。何かとお金のかかる時期なので、大変助かりました」。他にも子どもの医療費を負担する制度などもあり、東北町の子育て世代にとって非常に心強い味方になっている。

### 大坂真治さん【プロフィール】

1980年、東北町生まれ。地元でめぐりあった歩美さんと結婚し、現在は3児のパパ。「年中入れる温水プールなど子どもと遊べる環境が整っているのも魅力です」。

# 東北町 × 人

Interview

## 東北町で生きる

東北町の人たちは人とのつながりを  
とても大切にしている。

紡がれた絆の中で育まれる命、受け継ぐ誇り。  
その笑顔は、つねに未来を向いている。

# 源泉掛け流しの湯で 心も体もぽっかぽか

東北町  
いで湯のさと



竹炭が練りこまれた東北温泉の  
名物「黒コンニャク」



信楽焼の貸し切り風呂も楽しめる。  
もちろん源泉掛け流し



内湯の湯船は4つに分かれ、高  
温、泡風呂、電気風呂などが楽  
しめる



真っ黒なお湯をたたえる男性専  
用の露天風呂

東北町の数ある温泉の中でもひととき異彩を放つのが「東北温泉」の「黒い湯」。岩手大学の成田栄一教授が国内の数十カ所の黒い温泉を分析した結果、東北温泉の黒さが最も高い数値であることが分かりました。この黒い湯の正体は「モール（亜炭）。約4千万年前に樹木や植物がモールの層になり、そこから湧き出す温泉が貴重なモール温泉となるのです。このほか東北町には豊富な湯量をたたえる多くの源泉があります。ぜひ「いで湯のさと」の湯めぐりを楽しんでください。

-   
 おがわら湖温泉郷
- 温泉旅館水明
  - 八甲温泉
  - 玉勝温泉
  - 天然温泉まつゆ
  - さくら温泉
  - 姉戸川温泉
  - 東北温泉
  - ランプ温泉
  - ひばの湯ほぶら



## 大地と湖の 恵みにあふれた 逸品たち

豊かな自然に育まれた東北町は食材の宝庫でもあります。シジミ、シラウオなどの魚介類、ナガイモ、ダイコンをはじめとした野菜や酪農。そして、これらを使った加工品も数多く考案されています。小川原湖の恵みがつまった「宝湖わんこ井」や、町

のチーズ職人が作るチーズ「おがわらこ」、上品質の豚肉100%を使用した無添加の「ハム・ソーセージ」、古代米としても知られる「紫黒米」など逸品ぞろい。素材そのものの味を楽しむもよし、こだわりの加工品を楽しむもよし。ぜひ一度、賞味ください。



水産加工品



野菜加工品・漬物



はちみつ・酢



南部せんべい



乳製品・チーズ



日本酒・焼酎

地域の特性を  
最大限に生かし  
誰もが住みたくなる  
とうほくまちを  
目指して



町長メッセージ

笑顔があふれ、  
元気いっぱいの東北町。  
町民みんな  
未来へ羽ばたきます。



〈新たなまちづくりの基本理念〉

①『定住環境』をさらに高める。

「USK3環境※」をはじめ、自然と共生する快適な環境、安全・安心に暮らせる環境など、定住環境のさらなる向上を図り、みんなが夢と希望を持ち、ずっと住みたくなる、この地に移り住みたくなるまちづくりを進めます。

②『新たな活力』を生み出す。

基幹産業である農林水産業を柱とした多様な産業活動や、文化・スポーツ活動をはじめとする町民活動の活発化を促し、未来に羽ばたける、新たな活力や豊かさ、感動を生み出すまちづくりを進めます。

③『みんな』でともに働く。

町民や町民団体、民間企業等と行政とが、心をつにし、知恵と力を合わせ、支え合い助け合い、協働する体制づくりを進め、みんなの力によってみんなが幸せを実感できるまちづくりを進めます。

※生みやすい環境・育てやすい環境・健康で長生きできる環境の3つの環境のこと。「生む」のU・「育てる」のS・「健康」のKという頭文字をとって表現している。

〈2025東北町の将来像〉

笑顔・元気・活力あふれ 未来に羽ばたく とうほくまち

将来像は、本町が平成37(2025)年度に目指す姿を町内外に示すものであり、これからのまちづくりの象徴となるものです。すべての分野において、特色ある農林水産業や恵まれた立地条件をはじめとする本町の地域特性を最大限に生かしながら、『定住環境』をさらに高めるまちづくり、『新たな活力』を生み出すまちづくり、『みんな』でともに働くまちづくりを進め、町民一人ひとりが夢と希望を持ち、笑顔で元気に暮らすとともに、新しい活力が生み出され、未来に羽ばたくことができる、みんなが幸せを実感できる豊かなまちをつくり上げていくことを目指します。

東北町は青森県の東部に位置し、広大な緑の大地と県下最大の面積を誇る小川原湖を有する町です。

本町は、古くから恵まれた地域の特性を生かし、農林水産業を基幹産業として発展してきました。

農業では、全国有数の生産量を誇るナガイモやニンニクをはじめとする根菜類を中心とした野菜、葉タバコ、水稲などの生産、酪農を主体とする県下有数の規模を誇る畜産が行われているほか、水産業では、シジミ貝やシラウオ、ワカサギ、モクスガニなどの漁が行われ、全国有数の漁獲量を誇ります。

また、数多くの源泉を有し、豊富な湯量を誇る「いで湯のさと」であり、多彩で魅力ある観光・交流資源や保健・福祉施設、スポーツ環境なども充実しています。

本町ではこうした地域の特性を生かし、東北町の魅力を高めていくため、平成28年3月に策定した第2次東北町総合振興計画に基づきながら、町民の方々

と行政との共通目標として、「笑顔・元気・活力あふれ 未来に羽ばたく とうほくまち」を将来像とし、「定住環境」をさらに高める、「新たな活力」を生み出す、「みんな」でともに働くを基本理念とし、町民一人ひとりが夢と希望を持ち、笑顔で元気に暮らすとともに、新しい活力が生み出され、未来に羽ばたくことができる、みんなが幸せを実感できる豊かなまちづくりを目指しています。

先人が築きあげてきた歴史と文化を継承し、今を生きる私たちのためにも、「東北町に住んでよかった」と思えるまちづくりを進めていく所存です。

この町勢要覧を通して、東北町をご理解いただくとともに、東北町のさらなる飛躍に向けて、皆さまの一層のお力添えをいただきますようお願い申し上げます。

東北町長 蛭名 鉦治



東北町勢要覧 2017 [ダイジェスト版]

平成29年4月

発行／東北町

〒039-2492

青森県上北郡東北町上北南四丁目 32-484

TEL.0176-56-3111 (代)

FAX.0176-56-3110

<http://www.town.tohoku.lg.jp/>